

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）

(実施期間：令和3～令和8年度)

実施機関：東京女子医科大学（総括責任者：岩本 絹子）

取組の概要

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）のフレームに更なる先端的取組を追加し、優れた女性研究者の育成と女性活躍を進展させるYAYOIプロジェクトを全学体制で推進する。

1. 上位職登用：学長のリーダーシップの下、学長指名による准教授・講師の採用、昇進昇格を促進、優れた女性研究者を発掘し学長指名により教授に任命する。
2. 研究力向上とリーダー育成：オンライン国際研究交流体制を構築し、女性研究者の国際共同研究支援を行う。異分野を繋ぐ架け橋研究支援、AIインターンシップ制度、AI研究支援により女性研究者の異分野融合研究参画を促進する。
3. ダイバーシティ研究環境整備：オンライン・休日の学会等参加時の託児費補助制度を整備、見守り支援による実践的介護援助を新設し、女性研究者がより研究に専念できる環境を整える。研究支援員制度の利用対象者を育児・介護中の男性研究者まで拡大し、研究効率向上を図る。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

理事長と学長が協働してリーダーシップを発揮することにより、法人と大学を挙げて女性研究者の活躍促進を図る体制が構築されている。優れた女性研究者の育成と活躍促進を目的とする既存の「YAYOIプロジェクト」に、「架け橋研究支援」、「AI研究インターンシップ制度」、「学長指名推薦による女性教授登用」等の先進的な取組を加え、女性研究者の研究効率や研究力の向上、上位職への登用を進め、女性教授比率を30%とする所期の目標をほぼ達成しており評価できる。また、学内のニーズ調査結果を踏まえ、介護支援体制の構築を精力的に進め支援体制の充実を図ることにより、介護支援制度利用者比率が順調に増加しており更なる展開が期待できる。今後は、女子学生のための医科大学であることに鑑み、女性教授比率に係る所期の目標を将来的に更に引き上げ、教授職への女性の登用をより一層進めることを期待する。

- ・**目標達成度**：女性教授比率は29.7%まで上昇し、30%の所期の目標をほぼ達成しており評価できる。また、介護支援制度利用者比率は着実に上昇しており、所期の目標の達成に近づきつつあり今後の展開が期待できる。今後は、女性教授比率に係る所期の目標の将来的な引き上げを期待する。
- ・**取組**：「架け橋研究支援」、「AI研究スタートアップ支援」、「学長指名推薦による女性教授登用」、「ちょっと介護見守り支援」等、特色ある取組を多面的かつ総合的に推進している点は評価できる。実践的な介護支援体制が構築されており、他機関への波及効果が期待できる。

- **取組の成果**：教授、准教授、講師の女性比率が着実に上昇し、また、理事長、センター長、研究所長等、多くの要職に女性が就任し活躍していることは、特色ある多面的な取組の成果として評価できる。
- **実施体制**：理事長と学長という法人と教学のトップが協働してリーダーシップを発揮し、法人直下の「女性医療人キャリア形成センター」が事業実施母体となり取組を実施する実質的な実施体制が構築されており評価できる。また、「ダイバーシティ担当推進者会議」を定期的開催し、全学横断的に情報共有や進捗状況の確認を行う仕組みが整備されており評価できる。
- **今後の進め方**：これまでの取組を中長期ビジョン「ビジョン 2025」と関連させ発展させていくとともに、取組を継続、発展させるための経費として女性活躍に支出することのできる基金や経常費を確保しており、取組の更なる発展が期待できる。我が国の女性研究者・医療従事者のみならず、男性研究者・医療従事者にとっても働きやすい環境を整備するため、取組好事例等を広く学外に発信し、波及させることを期待する。